

市民参加型まちづくり1%システム 事業成果発表会

と き：平成26年7月19日（土）午後2時
ところ：ヒロロスクエア多世代交流室2

次 第

1. 開会
2. 成果発表
3. 総評
4. 挨拶
5. 閉会



【担当】 弘前市市民文化スポーツ部
市民協働政策課 市民協働係

▶事業成果発表会予定表

No.	事業名	団体名	開始時刻
開 会			
1	五代町会夏祭り&ほたる鑑賞会（学習会）	五代町会	14:05
2	こどもの救急・アレルギー・アナフィラキシーショックへの対応と「エピペン使用に対する講習会」並びに救急蘇生の啓蒙活動	特定非営利活動法人 津軽広域救急支援機構	14:15
3	第1回弘前城リレーマラソン	特定非営利活動法人 スポネット弘前	14:25
4	乳井区域内放棄地の環境整備と美化活動 （史跡里山環境美化活動）	乳井町おこし協力会	14:35
5	～和徳の歴史の探求と伝統ある津軽の歴史の魅力発信事業～ 「けの汁発祥の地 和徳城 小山内讃岐の守没後442年祭」	和徳歴史探偵団	14:45
休憩15分（14:55～15:10）			
6	映画上映会（「うまれる」）	SEEDS NETWORK	15:10
7	クラフトフェア事業「津軽森・つがるもり」	つがるもり実行委員会	15:20
8	常盤野町会防災活動	常盤野町会	15:30
9	豊田小学校通学路排雪事業	豊田小学校父母と教師の会	15:40
10	藤代地区の子供たちを見守る事業	自主防犯パトロール隊 アップル☆キッズ	15:50
総 評			
閉 会			

事業目的

町会で数年前からホタルの生息が確認できるようになったため、長年行ってきた夏祭りにホタルの観賞会を併せて行うことで、町会住民のコミュニケーションを図るとともに、ホタルの習性や自然環境について考える場を創出する。

事業内容

日中、子どもたちを中心に夏祭りを行った後、自動車のハザードランプを点灯してホタルが集まるような工夫をするなどして、ホタルの観賞会を行い、自然環境やホタルの生態について学んだ。また、地域外の人にもわかるよう、祭りの一週間後までホタルがいる場所への案内板を設置した。

- 事業実施場所：五代町会内（蔵王地区）
- 事業実施日：平成25年7月28日
- 参加者数：150人
- 補助金確定額：115,000円（事業費：158,824円）

事業の成果

集まってきたホタルが子どもたちの手にとまるなど、ホタルを身近に感じることで、子どもたちが大変感動し、地域住民もその光景を珍しがっていた。このホタルの棲む環境を大切にしていこうという気持ちを高める一助となった。

今後の活動

「ホタルロード」を定着できるような事業展開を考えていきたい。ホタルをゆっくり観賞できるような場所を設けたり、ホタルについて解説できる人を配置するなど、訪れた人が満足できるような事業を考えていきたい。

自己評価

夏祭りでは雨が降っていたが、ホタル観賞会のころには天候が回復し、予定通り開催し、自然環境について考える場を創出することができた。



昼の部は夏祭り。地域のみんなで交流をはかりました。



暗くなったらホタルの観賞会。ホタルの習性や環境について学びました。



事業目的

教育現場や家庭で、子どもたちのアレルギー反応への対処法に関して不安の声が上がっていることから、食物等のアレルギー反応である「アナフィラキシーショック」に対する正しい知識や、対処法・エピペン使用方法を習得してもらう。

事業内容

幼稚園・保育園から高校の先生のほか、子どもたちと接する機会が多い人向けに、アレルギーや救急蘇生に関する講習会を行った。また、指導者養成を考えた研修会や広報活動として救命の現状とアレルギーや救急蘇生のデモンストレーションを実施した。

- 事業実施場所：JR弘前駅、学習センターほか
- 事業実施期間：平成25年11月1日～平成26年1月31日
- 参加者数：1,159人
- 補助金確定額：500,000円（事業費：674,955円）

事業の成果

一般の人が疑問に思っていることに対して、わかりやすく伝える講習のノウハウを確立することができた。また、実践講習でも医師・看護師・救命士と一緒に少人数のグループに対して指導することで受講者に内容をよりわかりやすく伝えることができるようになり、受講者の理解度を高めることができた。

今後の活動

今回行った講習の内容に、火傷・眼科外傷・頭部外傷等のさまざまなケースを加えた講習内容を検討して実施したい。



自己評価

講習会を有料にすることで、参加者のモチベーションが高まり、受講後の講習の内容の理解度が高まった。



JR弘前駅で啓蒙活動



講習会の様子

事業目的

無理なく楽しんで走ることができるリレーマラソン大会を弘前公園で開催することで、大会のために運動を始める人や、健康増進のためスポーツを定期的に行う人を増やす。また、県外からの参加者を募り、スポーツツーリズムを推進する。

事業内容

5～10人でチームを作り、弘前公園内のコース（1周2km）をタスキリレーすることで、42.195kmの完走を目指した。当初50チームを予定していたが、最終的には109チームが参加した。

- 事業実施場所：弘前公園
- 事業実施日：平成25年6月16日
- 参加者数：1,120人
- 補助金確定額：431,000円（事業費：1,859,511円）

事業の効果

弘前公園を活用した行事が比較的少ない6月に公園を有効活用した事業を行うことができ、市外・県外から多くの人に参加してもらうことができた。また、この大会に出場するためにランニングを始め、アップルマラソンに出場しようという人も出てくるなど、定期的に運動する人を増やす一助となった。

今後の活動

参加チームを100から200に増やし、チームあたりの人数を広げることで、より誰もが参加できる大会にしていく。また、観光コンテンツとなるよう、県外にも周知をしていく。



当日大きな混乱もなく、ケガや体調を崩す人もほとんどなく大会を終えることができた。また、多くの人から来年もぜひ大会を行ってほしいという声を聞くことができた。



お城を見ながら快走！



次の走者のためにタスキをつなげます。



事業目的

放棄地となりつつあった里山の役割を復活させる活動に取り組む。また、子ども会や公民館、消防団、老人クラブ等各団体を巻き込みながら自然環境を維持することで地域力を育成し、町会全体の里山への意識を向上させる。

事業内容

地域にある史跡（茶臼館）の草刈りや階段の設置・樹木伐採等、ため池の清掃や護岸整備等を町会全体から広く参加者を募集し、参加者を班分けし、分担して整備を行った。また「絶景を見る会」として茶臼館に登るなど整備地を活用した。

- 事業実施場所：乳井町会内
- 事業実施期間：平成25年5月1日～12月30日
- 参加者数：162人
- 補助金確定額：224,000円（事業費：250,447円）

事業の成果

事業を始めて2年目となり、昨年よりも地域住民の事業に対する理解が高まり、整備された史跡やため池を訪れる人も見られるようになった。
共同で整備を行ったことで、地域住民の連携が取れ始めている。

今後の活動

25年度の水害の影響で進められなかった作業を、26年度に実施する。
史跡の倒木の処理、植樹や階段整備等、ため池の泥あげ等。
また、毎年「絶景を見る会」や「ホテル観察会」を開催し、住民同士の交流を図り、里山への関心を高める。



自己評価

町会活動に地域住民が協力的になってきている。ゴミ箱新設や、除雪対策などを各班が自発的に取り組む底力がでてきている。



急な斜面に階段を設置していく作業



茶臼館の東屋の整備。ここから見える岩木山の素晴らしさ!!

事業目的

「けの汁」発祥については諸説ある中、「和徳城落城の前に、兵士が残りの食材を細かく刻んで大鍋で煮て食べた」ことが由来とあることから、2007年に和徳城が「けの汁発祥の地」と宣言した。この歴史を次世代に伝えながら地域活性化を図る。

事業内容

和徳城跡地とも言われている和徳稻荷神社で、和徳町の歴史を伝えるために、和徳の歴史についての掲示板を設置し、来場者には和徳町周辺についてのパンフレットを配布した。また、けの汁のルーツについて広く知ってもらうためにけの汁の無料ふるまいを行った。

- 事業実施場所：和徳稻荷神社境内
- 事業実施日：平成25年6月9日
- 参加者数：1,500人
- 補助金確定額：168,000円（事業費：513,460円）

事業の効果

これまでの活動が地域に根付いてきており、弘前全体にも発信したことから、例年よりも来場者が多く、けの汁のふるまいが早く終了した。地域から市全体へと活動を広める第一歩とすることができた。

今後の活動

和徳の歴史についての掲示板やパンフレットの内容を充実させるなど、より歴史や文化の発信を進める。また、来場者が増えてきているため、けの汁のふるまいの時間を検討する。通年にわたり活動できる体制を作りつつ、市全体で活動していきたい。



1%システムを活用したことによって、より広報活動にも力を入れることができた。



けの汁のふるまいに長蛇の列



当日配布されたパンフレット。
会場には和徳の歴史についての掲示板も。

事業目的

一人一人が生まれてくる意味を考えることができるドキュメンタリー映画「うまれる」の上映会を通して、多くの人に「生きる」ことに着目し、生きることの楽しさなどについて考えてもらう機会を創出する。

事業内容

「うまれること」、「いきること」をテーマとしたドキュメンタリー映画「うまれる」の上映会を開催した。2回の上映のうち、1回目を赤ちゃんの泣き声もBGMというコンセプトの「ママさんタイム」とし、小さなお子さん連れで鑑賞することができるようにするなど、より多くの人に上映会に参加してもらう工夫をした。

- 事業実施場所：岩木文化センター あそべーる
- 事業実施日：平成25年5月25日
- 参加者数：187人
- 補助金確定額：101,000円（事業費：277,100円）

事業の成果

映画を通して、命についてや、自分自身の生き方についてなどを考えてもらうきっかけを創出することができた。

今後の活動

「生きること」をテーマとした上映会を継続して実施し、一人一人が「生きること」について考えるきっかけをつくるほか、食を通じたアプローチを行うなど、さまざまな生活や価値観を持った人に対して働きかけていきたい。



自己評価

当初目標ほどではないが、多くの人に上映会に参加してもらうことができたほか、ボランティアスタッフとしてさまざまな立場の人に上映会に携わってもらうことができた。



さまざまな人が上映会に参加しました。



事業目的

鱒ヶ沢町で開催したC-POINTで育ったつながりをもとに、弘前市で新たなクラフトフェアを開催し、全国各地のクラフト作家の「手」から生まれた「仕事」を市内・県内外からの参加者に伝え、作家本人とのふれあいの場を創出する。

事業内容

百沢の桜林公園の屋外空間で、全国各地から出展の応募があった作家たちの作品展示・販売を行った。会場づくりは、作家と来場者が気持ちよくモノと人、人と人のつながりを持つように配慮した。

- 事業実施場所：桜林公園（百沢）
- 事業実施日：平成25年6月1日・2日
- 参加者数：30,148人
- 補助金確定額：500,000円（事業費：1,677,000円）

事業の効果

26都道府県から出展があり、ものづくりを通して文化交流を図ることができたほか、県外からの作家・来場者が市内に宿泊・観光したことで、弘前の良さを知ってもらう一助となった。

今後の活動

起伏のある桜林公園が会場のため、来場者に配慮し、サポートできるような仕組みを考える。また、交通渋滞を緩和するため、桜林公園までのルートをいくつか事前にアナウンスすることや、シャトルバスを出すことを検討する。



自己評価

予想以上の来場者があり、作り手にとっても使い手にとっても良い交流の場を作り出すことができた。地元の新人作家の出店もあったことから、今後新しい作り手のデビューの場になって欲しいと考えている。



広々とした屋外空間でのクラフトフェア



さまざまな作品にふれあうことができました。



事業目的

少子高齢化に伴う要援護世帯の増加と地域の孤立を想定し、平成24年度、町会で自主防災組織を作り、地区一斉避難訓練を行った。今後も、年間を通しささまざまな防災活動を地域で行い、今まで以上にコミュニケーションを図り、災害に強い地域づくりを推し進める。

事業内容

地域住民全員を対象とした地区一斉避難訓練をはじめ、夏には子ども防災キャンプを行ったり、町会防災マップづくり・防災住民台帳づくりを行ったりなど、年間を通しての防災意識向上のための活動を展開した。

- 事業実施場所：常盤野地区ほか
- 事業実施期間：平成25年4月19日～平成26年2月20日
- 参加者数：222人
- 補助金確定額：500,000円（事業費：704,015円）

事業の効果

AEDや三角巾の使用方法等についての講習会を行うことで、参加者にはいざという時の技術習得をしてもらうことができた。また、豪雪対策について役員で話し合い、要援護世帯の隣人などの協力を得ながら除雪対策も行うことができた。

今後の活動

地域住民の防災意識はまだ高いとは言えないので、今後も粘り強く地区一斉避難訓練や救急法講習会、子ども防災キャンプなどの防災活動を開催する。



自己評価

子どもから年配者まで防災訓練に参加した。熱心に活動を進め、いろいろな知識と技術を習得してもらうことができた。



町会一斉防災訓練の様子。炊き出し訓練や消火訓練、リヤカー搬送などさまざまな訓練を行いました。



救急法の講習会で心臓マッサージやAEDの使用法を学びました。

事業目的

通学路が大量の雪によってすり鉢状になったことが原因で、児童が交通事故にあったケースがあった。このようなことが起きないように、県・市の委託業者による除排雪が実施されるまでの通学路の安全確保を地域住民の手で行う。

事業内容

豊田小学校PTAに排雪サポーター・軽トラック等を提供できる人を募り、応募者に作業日程を割り振りして通学路の排雪を実施した。

- 事業実施場所：豊田小学校区
- 事業実施期間：平成26年1月8日～3月2日
- 参加者数：70人
- 補助金確定額：243,000円（事業費：272,509円）

事業上の効果

最初は作業時間も長くかかっていたが、回を重ねるごとに交通誘導等に慣れ、作業時間が短縮された。また、参加回数を増やしたメンバーがいたり、活動のみで沿道住民が普段行っていない歩道の除雪を個別に行うなどの波及効果があった。

今後の活動

交通誘導や軽トラックの嵩上げ板の改良などで除排雪時の安全確保の精度を上げ、事業を継続して行く。



自己評価

今後も伸びしろがある事業である。通学路は地域の生活道路でもあるので、地域住民が地域の実情に沿った除排雪対策を行っていきることが必要であると考えます。



これからの除排雪作業についての説明会



安全を確保しながら通学路の排雪を行いました。



事業目的

近年、子どもたちを巻き込んだ犯罪が増加してきていることから、あいさつ運動などでふれあいながら、地域の子どもは地域の大人が見守っていく。

事業内容

防犯や交通安全をテーマにした大型絵本を、メンバーの手作りで作成し、児童館や児童センターなどで子どもたちに対して防犯の呼びかけを行った。また、新入学児童と保護者に対してや、長期休み明けなどにあいさつ運動や防犯の呼びかけなどを行った。

- 事業実施場所：致遠小学校区・三省小学校区
- 事業実施期間：平成25年4月1日～平成26年3月19日
- 参加者数：2,500人
- 補助金確定額：174,000円（事業費：193,611円）

事業の効果

あいさつ運動で、地域の子どもたちと顔見知りになることで、安全な地域づくりの一助となった。防災についての手作り絵本に岩木山やりんご畑など弘前らしさを織り交ぜたことで、子どもたちにはまちの良さを伝えながら、地域の大人が子どもたちを見守っていることを知ってもらうことができた。

今後の活動

一人でも多く活動に携わってくれる人を増やししながら、あいさつ運動や防犯の呼びかけなどの活動を継続していく。



自己評価

平成23年度に1%システムを活用し、名入りのジャンパーを購入した。今ではジャンパーを着用していると、子どもたちから声をかけてくれるようになり、活動が浸透してきている。手作り大型絵本が思った以上に好評で子どもたちが静かに見入ってくれる。



紙芝居や手作りの絵本を使って、子どもたちに防犯・交通安全を呼びかけました。



休み明けのあいさつ運動

MEMO

A large, empty rectangular frame with rounded corners, defined by a double-line border, intended for writing a memo. The frame occupies most of the page, leaving a margin at the top right where the word 'MEMO' is printed.